



総会で挨拶する山田二郎会長

平成五年度の通常総会が五月十五日、東京・千代田区内神田のコープビルで開かれた。

この通常総会には、海外から中村テル名誉会員、蔡禮楽会員（中華民国登山協会会長）ら会員一七名が出席。

議案①平成四年度事業報告および収支決算、財産目録承認の件 ②平成五年度事業計画（案）および収支予算案承認の件 ③定款一部変更の件 ④役員改選の件 ⑤平成五年度除籍者の件 ⑥その他、について慎重審議した結果、いずれもこれを原案通り可決、承認した。議案審議に先立ち、小倉茂暉総務

ナムチャバルワ登山と山研改築

議長に就任した山田二郎会長は、大要次のような挨拶を行った。

「平成四年度は、多くのプロジェクトを抱え込んだが、役員、会員各位のバックアップでこれらを達成することができた。

ナムチャバルワについて、一九九〇年の偵察以来、一九九一年には大西隊員を失うという悲しみもあったが、昨年十月三十日、隊員の安全のため登頂を断念した重広恒夫隊長を除き、ほぼ

設けられている。

このナムチャバルワ、山研については、本日合同募金委員会を開き、合同募金決算報告（別掲）、監査報告（別掲）を行った。

その他青年部、学生部が谷川岳合宿を行ったことは、会活性化のため特筆されることだし、図書管理については専門の女性職員が入り、整理がさらに進んでいる。中高年登山対策についても、第二回中高年登山対策全国大会を開き、それなりの成果を得ている。科学研究委員会のマッキンリー気象観測

平成五年度通常総会
藤平会長、 嶋原・中村副会長を選出

担当常務理事が、三月末現在の会員数五、〇〇七名、委任状二、〇三〇名、計二、一四七名で、定款第三十三条に基づく三分の一定数一、六六九名を上回り、総会が成立した旨を報告。議事録署名人に橋本清、南川金一両会員を指名した。

全員登頂という成果を得た。

山研改築については何とか収支のメドもつき、四月二十八日に竣工式を行い、翌日オープンした。連休中の利用者も多く、今後ますます利用されることを期待したい。なお、地下室には資料委員会の努力により、資料展示室が設けられている。

このナムチャバルワ、山研については、本日合同募金委員会を開き、合同募金決算報告（別掲）、監査報告（別掲）を行った。

その他青年部、学生部が谷川岳合宿を行ったことは、会活性化のため特筆されることだし、図書管理については



1993 年 (平成五年)

7 月 号 (No. 578)

社団法人 日本山岳会

The Japanese Alpine Club

定価一部 150 円

目次

平成5年度通常総会 藤平会長、
鳴原・中村副会長を選出……………1
会長就任に当たって あえて艱難に
挑み前進を……………3
木暮理太郎第三代会長五十回忌
なごやかに本会記念碑除幕式…10
今西元会長、ネパールの名誉総領事
に……………11

東西南北

山と自然の断章(4)……………11

『山』の編集をふり返って……………12

海外の山.....12

報告

名誉会員三氏が相次いで逝去…13

田辺主計氏宛て書簡類を本会に寄

贈.....14

圖書紹介(MY VERTICAL WORLD)

Climbing 8000 metre peaks) ... 14

会務報告.....15

5月定例理事会 5月臨時理事会

各委員会報告 ルーム日

誌 会員異動 山研・ナ 

ムチャ合同募金応募状況

書籍・雑誌受け入れ報告

住所・住居表示変更 新

入会員（復活）

お知らせ.....18

▶日本山岳会事務取扱時間

月、火、木、土曜 10時～20時

水, 金曜 13時~20時
日曜・終日は休み

►圖書室開室時間

日曜・祭日・月曜を除く毎日

13時～20時

お知らせテープ電話

3234
六六五九

も継続されるし、自然保護については、今後実行面に力を入れることになるう。

また『山岳』の索引が完成したのは大変喜ばしいことで、これに関わられた各位の努力に敬意を表したい」

山岳会の収支は健全

小倉理事からの会務報告のあと、平成四年度事業報告(別掲)が行われ、次いで大倉昌身財務担当理事から平成四年度収支決算、財産目録(別掲)について説明がなされた。

それによると同年度の収支は、予算額五〇七万円に対し、決算額一億九五四三万九四二六円と、一億四〇三六万九四二六円の黒字。これは募金収入と、前年度に比べ九三割の通常会費収入や、会員名簿発行に伴う広告料収入、ナムチャバルワ登山に対する「スポーツ振興基金」助成金、合同募金、登山特別基金全額取り崩しなどによる。

一方支出面では、予算額五五〇三万五〇〇〇円に対し、一億九〇七六万八一六七円。ナムチャバルワ関係の壮行会、晩餐会当日の報告会、H A T J 関係のその他の事業、会員名簿発行による印刷・製本費、山研改築に伴う工事業業者への建設仮勘定支出や地鎮祭、上棟式など雑費、海外登山基金支出などで、一億三三七三万三一六七円の支

出増だが、ナムチャバルワ、山研改築関係を除くと、他項目については前年度に引き続き健全、安定化したものになっている。

財産目録は資産合計三億二六〇三万九四三一円、負債合計は六四〇万三八七四円で、差引正味財産は三億一九六三万五五七円。

これに関し中島伊平監事から、平成四年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めるとの報告があった。

多様な事業を展開

平成五年度事業計画案(別掲)および収支予算案(別掲)については、同じく小倉、大倉両理事から説明が行われた。この事業計画では尾瀬での自然保護

全国集会(九月)、山梨県増富での全国支部懇談会(十月)の集会や、登山文化研究会の開催(十月)、マッキンリー気象観測報告(十月)、山研における自然エネルギーの利用、フィールドマナー・ノート(和文、英文)の作成配布、皇冠峰他三隊への海外登山基金助成援助が盛り込まれている。

これに対する予算も、収入では通常会費、山研使用料を大幅に見込んで六〇八七万円に。一方支出では空調機入れ替え、パソコンリース料などの増加

で六〇七四万円。収支とも前年度を約五〇〇万円上回る規模となった。

定款一部変更の件は、第十三条の副会長二名以内を三名以内に変更するもので、支部行事への参加や、関係官庁折衝、補助金・助成金折衝、さらには国際化への対応など、きめこまかに対処するため。正式には定款四十六条に定める文部省の認可を得、諸手続きをへて明年度からとなる。

役員改選については、正副会長を含め理事、幹事十四名、評議員十名が改選となり、新会長には藤平正夫、新副会長に嶋原啓佑、中村純二の各氏が選出された。新役員、新評議員は別掲のとおり。平成五年度除籍者については、小倉理事から該当者四十九名の氏名が読み上げられ、明年三月末日までに極力会費納入を働きかけることとした。

会長を退任するに当たって

議案審議を終え、退任した山田前会長は、「四年前の会長就任以来、日本山岳会はアルパインクラブであるという原点に立ち、運営してきた。今の活力を保つためには、若いエネルギーも取り入れる、つまり尖鋭的な山登りも必要であり、また、芸術、文化活動も包含されたものでなくてはならない。この性格づけに対しては了解されたものと思う。」

会長就任以来、①仲間を大切にしよう ②命を大切にしよう ③自然を大切にしよう ということを申し上げたが、①については、いくつかの同好会ができ、それぞれにクラブライフを楽しんでいる。今後もそれがさらに広がることを期待したい。②については、将来を嘱望された有能な人材を失った。特に雪崩など、事故防止対策が私の任期中にできなかったことについて、責任を感じている。③については、私の偏見かもしれないが、世にいう自然保護者には奢りがみられるという印象を持っている。山を荒らしているのは登山者自身かもしれない。その点、足元を見つめた活動が必要ではないのか。

事業面ではナムチャバルワ、山研改築の二大プロジェクト、H A T J への協力で、会員の協力がまとまり、日本山岳会の強さを知った。

組織改革を提起したが、中途半端に終わっており、これは次期執行部に期待したい」と語った。

日本山岳会の底力に期待

このあと壇上に、当日出席の新役員、新評議員が紹介された。

藤平正夫新会長はその挨拶の中で、「会長に選任され、光栄に思っている。四年間の副会長期間、前半二年は戸惑

いが先行したが、ナムチャバルワ、山研改築、HATJを遮二無二やった

「台湾の山にいらっしやること大歓迎。いつでも電話を」とも。

乾杯の音頭はオーストラリアからの中村テル名誉会員。「ホームシックにはならないが、日本の話、特に日本の山の話となると涙が出る。山を、川を、森を愛したそれらが、私の血となり肉となっている。皆さん、いつまでも、健康で」には大きな拍手。

このあとくつろいだ雰囲気のみ、交歓の輪が広がったことはいまでもない。

今日の会務報告によれば、会員数は名誉会員二〇名、永年会員三九名、終身会員七九名、通常会員四、八六九名の計五、〇〇七名。平成四年度の新入会員二四三名、復活会員一七名、物故会員三二名、退会者三一名、除籍会員二名。物故会員は次のとおり。敬称略。

野口末延(名誉・永年会員)、今西錦司(同)、中村勝郎(永年会員)、杉本義信(同)、小野幸(同)、見学玄(同)、柴田均二(終身会員)、坂江善治、田中栄蔵、吉田勇、坂倉勝正、川又恒一、奥山文次、中野峻陽、牛山太六、福住修治、五十嵐俊治、宮本貴文、川端信治、長谷川曉一、牛島有、佐藤敏彦、長島隆、平野隆司、吉田満、高本信子、山懸浩、三成利男、奥淳一、児島弘昌、山田武楠、西岡政人。

「日本山岳会はますます盛大で、かつ方向を誤らないように運営したい」と挨拶。蔡禮樂中華民國登山協會会長は

(写真・伊藤敏/文責・高田眞哉)

■平成五年度 理事・監事・評議員

会長 藤平 正夫(新) 二二四七
副会長 嶋原 啓佑(新) 四一八六
中村 純二(新) 四五四一
小倉 茂暉(再) 四二四〇
大森弘一郎(再) 四五三二
山口 俊輔(再) 四九七六
村井 龍一(再) 五〇九一
大倉 昌身(再) 五六八二
片岡 泰彦(再) 八八六六
南川 金一(再) 九四七五
伊藤 敏(新) 四〇九六
中川 武(新) 五六七九
水野 勉(新) 七九〇二
渡辺 雄二(新) 七九一四
堀井 昌子(新) 八八五二
松浦祥次郎(新) 八八八五
山本 宗彦(新) 九二一七
大谷 亮(新) 九四五〇
南井 英弘(新) 九七九一
溝口 洋三(新) 一〇〇九九
中島 伊平(再) 四四六〇
川崎 巖(新) 五五二三
西丸 震哉(再) 三〇五九
村木潤次郎(再) 三四七二
徳久 球雄(再) 三七六八
鈴木 郭之(再) 四六七七
国見 利夫(再) 五二二八
斎藤 惇生(再) 五三七三
湯浅 道男(再) 六二二四

田部井淳子(再) 六三九九
廣江 研(再) 六四一六
西村 政晃(再) 七四六八
山田 二郎(新) 三四七三
小須田喜夫(新) 三五九三
松田 雄一(新) 四一一一
平林 克敏(新) 五〇七二
田中 弘美(新) 五二三〇
宮下 秀樹(新) 五五五〇
梅木 秀徳(新) 五九〇八
神崎 忠男(新) 六〇〇二
重廣 恒夫(新) 七九三一
宮本 数男(新) 一〇六二二

会長就任に当たって

あえて艱難に挑み前進を

会長 藤平正夫

四年前副会長に就任した時は、長い間留守にしていた本部の仕事に携わり、今浦島の感で、なれるまで相当の時間がかかりました。かつて御茶ノ水時代に短期間でしたが、常務理事を務めたことがあります。別宮、日高の両会長にまたがる期間でしたが、その頃と比べると全くめくるめく会の変わり方で、四年間は日々これ新しい経験の連続であったといえます。

この四年間は、ナムチャバルワの二

日本山岳会 平成4年度事業報告

(4.4.1~5.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講習会および展覧会の開催

(イ) 集会

4月22日	講演会「山を読む」(集会)	本会
5月2~6日	GW 合宿(青年)	穂高岳
5月16日	支部長会議(総務)	コープビル
5月16日	総会(総務)	"
5月16~17日	岩登り講習会(学生)	幕岩
5月17日	懇親山行(科学)	玄岳
5月23~24日	自然保護全国集会(自然保護)	朝日の森
5月29~31日	第16回若葉会山行(集会)	白山
5月24日	懇親山行(女性懇談会)	大洞山
5月26日	討論会「大学山岳部の山登り」(学生)	本会
6月1~2日	第46回ウエストン祭(信濃支部)	上高地
6月3日	地域研究「メンルンツェ峰」(青年)	本会
6月12~14日	谷川岳合宿(青年, 学生)	谷川岳
6月19~20日	三宅島親睦旅行(集会)	雄山
6月20~21日	小川山集会(学生)	小川山
6月27~28日	富士山合宿(青年)	富士山
7月7日	マッキンリーとスミスロック報告会(学生)	本会
7月10~11日	カメラ、ビデオ撮影会(フィルム、ビデオ)	谷川岳
7月16日	マッキンリー峰隊報告会(青年)	本会
8月29~30日	全国集会「女性登山史について」(女性懇談会)	御岳山
8月6日	グリーンランド報告会(青年)	本会
9月3日	トモール峰報告会(青年)	本会
9月5日	丹沢沢登り(集会)	葛葉沢
9月12日	サタデープラン親子ハイキング(総務)	高柄山
10月6日	アムネマチン峰報告会(青年)	本会
10月14日	講演会「森を読む」Part I(集会)	本会
10月17~18日	初級岩登り講習会(青年, 学生)	小川山
10月17~18日	探索山行「吾妻耶山, 谷川岳の地形と地質」(科学)	吾妻山
10月17~18日	スケッチ山行(集会)	一切経岳
10月17~18日	岩登り講習会(指導)	小川山
10月19日	新人会員懇談会(総務)	本会
10月24日	第23回図書交換会(図書)	本会
10月25日	カメラ、ビデオ撮影会(フィルム、ビデオ)	夜叉神峠
10月31日	全国支部懇談会(総務)	福岡支部
11月4日	中央大学パミール登山隊報告会(青年, 学生)	本会
11月6日	16mmフィルム映写会「福原健司作品」(フィルム、ビデオ)	本会
11月7日	海野治良講演会(資料)	本会
11月8日	第29回マラソン大会(学生)	皇居周辺
11月11日	講演会「森を読む」Part II(集会)	本会
11月17日	ヨセミテクラミング報告会(学生)	本会
11月25日	立教大コンデリ峰報告会(青年)	本会
11月27日	講演会「冬山遭難防止」(遭難対策)	本会
11月29日	キルギスタン共和国観光省懇談(青年)	本会
12月1日	学生部女子懇談会(学生)	本会
12月2日	東洋大チョンブー報告会(青年)	本会
12月5日	支部長会議(総務)	新高輪プリンスホテル
12月5日	年次晩餐会(総務)	"
12月6日	懇親山行(集会)	陣馬山
12月8日	ナムチャバルワ報告会(学生)	本会
12月31日	忘年山行(集会)	二六夜山
1月13日	ビデオ上演「スクーニャン南壁」(青年)	本会

度にわたる遠征、山研の改築、中高年登山、国際化、環境問題、直接ではないがJACが実質的に核となったHAT-Jの開催などビッグ・プロジェクトが引き続きました。

この間、苦楽をともにした山田前会長、村木(元)、松田(前)副会長を始めとした役員の方々が多数退任されました。ご努力とそこにご功績に深く感謝いたします。

そしてこれらに寄せられた会員各位の絶大なご理解とご協力については、本会の人的、物的な底力を今更のごとく認識するとともに、限らない誇りを覚えました。

いま、私なりにとらえている問題を簡単に略記いたします。もちろん、これは理事会などで討議して改めて確認し、具体的手順を決めるものです。

●一九九五年は当会の九〇周年になります。この取組みについては時間的余裕がないので、早急に各界のご意見を求め、具体化したいと思っております。

●内部的には、多様化、大規模化した会の組織問題が山田前会長時代にも検討されましたが、未解決の面も多くあります。クラブとしての基本的性格と機能面との整合性を勘案しながら、対処していきたいと考えています。

●若年会員の増強は、会の活力のため

には不可欠のことで、多角的検討を要するものと考えられ、これについて何とか端緒を開きたいと思っております。

●環境保全や国際化の問題は、既に論議だけで済むものではなく、具体的解決の段階に入っており、関係諸団体と協力して対応していきたいと考えます。

ここでクラブの基本的性格について、私見を申しあげますと、大別して二つのことがあろうかと思えます。すなわち、アルピニズムの高揚と山を愛する多様性の尊重であります。アンビシャスでタフなアルピニズムの堅持がその一つ。また、山は老若を問わず、いろいろな関わり方があります。こ

した多くのグループについても、本部として各支部とも連絡し合い、便宜を取り計らえないかと思っております。

かつて名誉会員との懇談会の席上、田口二郎会員から「山岳会として、今さら昔に帰ることはできない。困難を避けるに取組んでほしい」と激励を受けたことがあります。あえて難難に挑み、難場を越えて前進するのが、私たちアルピニストであります。

この栄光ある日本山岳会会長の重責を果たすことに最善をつくしたい所存であります。会員各位のご指導とご鞭撻を心からお願い申し上げて、ご挨拶といたします。

収 支 計 算 書

平成4年4月1日から平成5年3月31日まで

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	400,000	444,565	△44,565	
2. 会費・入金収入				
入金収入	3,450,000	3,645,000	△195,000	
復活会費収入	0	255,000	△255,000	
通常会費収入	41,000,000	44,901,000	△3,901,000	
終身会費収入	0	580,000	△580,000	
会費・入金収入計	44,450,000	49,381,000	△4,931,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,500,000	2,820,543	△1,320,543	
印税収入	20,000	3,823	16,177	
刊行物売上収入	800,000	732,300	67,700	
その他事業収入	2,500,000	3,441,850	△941,850	
山研使用料収入	0	0	0	
事業収入計	4,820,000	6,998,516	△2,178,516	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	17,500,000	△17,500,000 (注)1	
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
募金収入	0	94,043,296	△94,043,296 (注)2	
6. 雑収入				
受取利息	5,000,000	6,022,606	△1,022,606	
雑収入	400,000	2,934,443	△2,534,443	
雑収入計	5,400,000	8,957,049	△3,557,049	
7. 特定預金取崩収入				
登山特別基金取崩収入	0	17,480,000	△17,480,000 (注)3	
退職給与積立金取崩収入	0	635,000	△635,000	
特定預金取崩収入	0	18,115,000	△18,115,000	
当期収入合計(A)	55,070,000	195,439,426	△140,369,426	
前期繰越収入差額	29,895,069	29,895,069	0	
収入合計(B)	84,965,069	225,334,495	△140,369,426	

(注) 1. ナムチャバルワ登山に対する

「スポーツ振興基金」助成金 ¥15,000,000.-

「放送文化基金」助成援助金 ¥2,000,000.-

中高年登山対策全国大会に対する

「SSF スポーツエイド」助成金 ¥500,000.-

(注) 2. 合同募金 1991年6月18日～1993年3月31日

(注) 3. 登山特別基金を全額取崩し海外登山基金として積立てるため

科 目	予算額	決算額	差 異	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	11,380,000	11,046,822	33,178	
図書管理費	800,000	1,022,426	△222,426	
調査研究費	1,236,000	1,011,515	224,485	
指導費	932,000	916,969	15,031	
支部関係費	3,500,000	3,966,110	△466,110	
海外諸関係費	250,000	272,841	△22,841	
山岳研究所運営費	1,177,000	1,309,106	△132,106	
海外登山補助金	3,500,000	2,500,000	1,000,000	
その他事業費	2,500,000	52,287,693	△49,787,693	
印刷・製本費	500,000	557,756	△57,756	
通信運搬費	3,600,000	3,954,974	△354,974	
事業費計	29,375,000	78,846,212	△49,471,212	

1月15～17日 懇親スキー合宿(集会) 八方尾根

1月22～26日 第二回アルパインスケッチクラブ展(集会)

渋谷

1月24日 懇親山行(女性懇談会) 伊予ヶ岳, 富士

2月3日 梅里雪山遭難報告会(青年, 遭難対策) 本会

2月5～7日 アイスクライミング集会(青年, 学生) ハヶ岳

2月20～21日 雪山集会(集会) 黒斑山

2月25日 16mmフィルム映写会「福原健司作品」

(フィルム, ビデオ) 本会

2月26日 第21回山岳史懇談会(図書) 本会

2月28日 全国支部事務局担当者会議(総務) グリーンホテル

3月3日 アマダブラム南西稜報告会(青年) 本会

3月6～8日 戸隠スキー集会(女性懇談会) 戸隠

3月13日 新入会員オリエンテーション(総務) 本会

3月25日 第24回山岳図書を語る夕べ(図書) 本会

(ロ) 研究会

6月3日 地域研究, メンルンツェ峰 本会

7月16日 ナムチャバルワの気象解析 本会

マッキンリー気象データローガー設置報告 本会

(ハ) 講演会, シンポジウム

7月11日 講演会「第12回日本登山医学シンポジウム」

筑波ホール

I 低圧シュミレーターによる高所体験

II 高山病予防のための高所順応トレーニングについて

III 高山病対策のための救急医学

7月16日 講演会「ナムチャバルワの気象解析」 本会

1992 マッキンリー気象データローガー設置報告

11月28日 雪崩シンポジウム 青山学院大

2月24日 講演会「中高年登山者に対するトレーニング

効果」 本会

2. 登山施設の改善, その他登山のための適切な事業

・上高地山岳研究所の改築

・山に関する貴重なフィルム, スライド, テープ, アルバム等の

複製, 絵画の補修および貴重な資料の収集, 整備, 管理

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

2月27～28日 中高年登山安全対策全国大会

4. 自然保護活動の推進

6月7日 「三頭山と都民の森」自然観察と台風被害視察

11月8日 ライオンズクラブ国際協会「高尾山の自然観察

と山をきれいにする活動」への支援

11月19日 講演会「登山者による自然破壊」

3月28日 自然観察と自然破壊現場観察

5. 機関誌などの発行

・「山岳」第87年(1992年)号の発行

・「山岳」総索引の発行

・会報「山」第563号～第574号の発行

6. 国内および外国山岳団体との連絡, 情報交換

・国内関係団体(日山協, 都岳連, HAT-Jその他)との密接な

連絡

・海外登山団体との機関誌および情報の交換

・UIAA 東アジアブロック会議への協力 1月29～1月31日

・韓国山岳会との会議 11月28～12月1日

7. 海外登山

・第三次マッキンリー気象観測機器設置登山の実施

・日中合同ナムチャバルワ峰登山隊の派遣

・ナムチャバルワ・トレッキングの実施

・アムネマチン峰登山隊の派遣

・福岡支部創立30周年記念シヤパンマ峰登山の実施

・海外登山基金助成(スクーニャン)

8. その他目的を達成するために必要な事業

・山岳図書の拡充をはかる

・その他目的を達成するために必要な事業を行う

登山特別基金	17,480,000		
退職給与引当預金	635,000		
什器・備品	80,000	18,195,000	
2. 負債増加額			
退職給与引当金繰越入額		2,000,000	
減少額合計			20,195,000
当期正味財産増加額			73,439,983
前期繰越正味財産額			246,195,574
期末正味財産合計額			319,635,557

貸 借 対 照 表

平成 5 年 3 月 31 日現在

科 目	金	額	
[1] 資産の部			
1. 流動資産			
現金	528,581		
振替貯金	1,051,524		
普通預金	5,500,097		
定期預金	26,000,000		
未収会費	3,225,000		
棚卸資産	3,365,263		
流動資産合計		39,670,465	
2. 固定資産			
基本財産			
貸付信託	8,000,000		
基本財産合計	8,000,000		
その他固定資産			
土地	46,297,170		
建物	26,423,000		
建設仮勘定	64,000,000		
什器備品	5,613,796		
図書出版研究基金	4,620,000		
長期計画積立金	31,250,000		
登山特別基金	0		
海外登山基金	89,110,000		
終身会費積立金	6,390,000		
退職給与積立金	4,665,000		
その他固定資産合計	278,368,966		
固定資産合計		286,368,966	
資産合計			326,039,431
[2] 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費	174,000		
預り金	1,564,874		
流動負債合計		1,738,874	
2. 固定負債			
退職給与引当金	4,664,000		
固定負債合計		4,665,000	
負債合計			6,403,874
[3] 正味財産の部			
正味財産			319,635,557
(うち基本金)			8,000,000
(当期正味財産増加額)			73,439,983
負債及び正味財産合計			326,039,431

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 有価証券の評価基準及び評価方法について
基本財産の貸付信託は、総平均法による原価基準を採用している。

2. 運営管理費			
給料・手当	8,500,000	7,451,000	1,049,000
退職金	0	635,000	△635,000
文具・消耗品費	200,000	359,397	△159,397
印刷・製本費	1,500,000	2,624,142	△1,124,142
旅費・交通費	1,500,000	2,762,352	△1,262,352
通信・運搬費	1,200,000	1,167,562	32,438
火災保険料	100,000	372,760	△272,760
修繕費	200,000	603,786	△403,786
租税公課	600,000	455,520	144,480
光熱水料費	450,000	417,544	144,480
電話料	350,000	451,974	△101,974
会議費	200,000	295,554	△95,554
什器備品費	350,000	366,645	△16,645
振替手数料	300,000	277,020	22,980
支部運営費	3,500,000	3,373,000	127,000
福利厚生費	160,000	113,638	46,362
事務所管理費	700,000	705,212	△5,212
その他の管理費	500,000	769,358	△269,358
負担金	0	135,000	△135,000
雑費	600,000	1,745,491	△1,145,491
管理費計	20,910,000	25,081,955	△4,171,955
3. 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	250,000	570,000	△320,000
建設仮勘定支出	0	60,500,000	△60,500,000
固定資産取得支出計	250,000	61,070,000	△60,820,000
4. 特定預金支出			
海外登山基金支出	0	18,110,000	△18,110,000
図書出版研究基金支出	0	170,000	△170,000
長期計画積立金支出	3,000,000	4,910,000	△1,910,000
登山特別基金支出	0	0	0
終身会費積立金支出	0	580,000	△580,000
退職給与引当預金支出	0	2,000,000	△2,000,000
特定預金支出計	3,000,000	25,770,000	△22,770,000
5. 予備費			
予備費	1,500,000	0	1,500,000
当期支出合計(C)	55,035,000	190,768,167	△135,733,167
当期収支差額(A)-(C)	35,000	4,671,259	△4,363,259
次期繰越収支差額(B)-(C)	29,930,069	34,566,328	△4,636,259

正味財産増減計算書

平成 4 年 3 月 31 日～ 5 年 3 月 31 日

科 目	金	額	
1. 増加の部			
1. 資産増加額			
当期収支差額	4,671,259		
図書出版研究基金	170,000		
長期計画積立金	4,910,000		
海外登山基金	18,110,000		
終身会費積立金	580,000		
退職給与引当預金	2,000,000		
建設仮勘定	60,500,000		
什器・備品	570,000		
棚卸資産	1,488,724	92,999,983	
2. 負債減少額			
退職給与引当金取崩額	635,000	635,000	
増加額合計			93,634,983
1. 減少の部			
1. 資産減少額			

流動資産合計		39,670,465	
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
貸付信託			
三井信託銀行本店	2,380,000		
日本信託銀行本店	420,000		
中央信託銀行本店	5,200,000		
基本財産合計	8,000,000		
(2) その他固定資産 注2			
土地 57.9148 m ²	46,297,170		
建物 158.54 m ²	26,423,000		
建設仮勘定	64,000,000		
什器・備品	5,613,796		
図書出版研究基金(定期預金・協和埼玉市ヶ谷)	4,620,000		
長期計画積立金(定期預金・三菱市ヶ谷)	30,250,000		
長期計画積立金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	1,000,000		
登山特別基金(定期預金・三菱市ヶ谷)	0		
海外登山基金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	89,110,000		
終身会費積立金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	6,390,000		
退職給与積立金(定期預金・あさひ市ヶ谷)	4,665,000		
その他固定資産合計	278,368,966		
固定資産合計		286,368,966	
資産合計			326,039,431
[2] 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費 21名分	174,000		
預り金 職員に対する源泉所得税その他	1,564,874		
流動負債合計		1,738,874	
2. 固定負債			
退職給与引当金	4,665,000		
固定負債合計		4,665,000	
負債合計			6,403,874
正味財産			319,635,557

注 1) 棚卸資産内訳

種 類	摘 要	金 額
刊 行 物	山岳・山岳総索引・山岳覆刻版等	2,072,490
服飾品・その他	クラブタイ タイ止等	1,292,773
合 計		3,365,263

注 2) その他固定資産内訳

1. 建物および土地

A 事務所および図書室		
場所	東京都千代田区四番町 5 番 4	
構造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下 1 階付 5 階建	
(事務所)区分所有建物 1 階部分	103.32 m ²	
宅地特分	1,124.56 m ² × 339/10,000 = 38.122584 m ²	72,720,170
(図書室)区分所有建物 1 階部分	55.22 m ²	
宅地特分	1,124.56 m ² × 176/10,000 = 19.792256 m ²	
計	158.54 m ² 宅地特分 57.91484 m ²	

- (2) 固定資産の減価償却について
建物及び什器備品の減価償却は行っていない。
- (3) 引当金の計上基準について
退職給与引当金は期末退職給与の要支給額の 162%に相当する額を計上している。
- (4) 資金の範囲について
資金の範囲には、現金預金、未収会費、前受会費及び預り金を含めている。なお、前期末及び当期末残高は、下記 3 に記載のとおりである。

2. 基本財産の増減及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加	当期減少	当期末残高
貸付信託(三井)	2,380,000	0	0	2,380,000
" (日本)	420,000	0	0	420,000
" (中央)	5,200,000	0	0	5,200,000
合 計(基本金)	8,000,000	0	0	8,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高	備 考
現 金 預 金	27,589,819	33,080,202	
未 収 会 費	2,698,000	3,225,000	
合 計	30,287,819	36,305,202	
前 受 会 費	189,000	174,000	
預 り 金	203,750	1,564,874	
合 計	392,750	1,738,874	
次期繰越収支差額	29,895,069	34,566,328	

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物	26,423,000	0	26,423,000
什 器 備 品	5,613,796	0	5,613,796
合 計	32,036,796	0	32,036,796

財 産 目 録

平成 5 年 3 月 31 日現在

科 目	金 額
[1] 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	
現金 現金手許有高	528,581
振替預金	
東京地方貯金局	1,051,524
普通預金	
あさひ銀行市ヶ谷支店	4,835,000
三菱銀行市ヶ谷支店	566,389
三和銀行本郷支店	34,995
中央信託銀行本店	2,734
三井信託銀行新宿西口支店	60,550
日本信託銀行本店	349
定期預金	
あさひ銀行市ヶ谷支店	26,000,000
未収会費 343名分	3,225,000
棚卸資産注1	3,365,263

焼 岳 秋 趣	版 画 -8	鈴木 正俊	集 会 室
ナムチャバルワ峰暮色	油 -10	神原 忠夫	談 話 室
白 馬 雪 田	日 本 画	丸山 晩霞	談 話 室

・他の絵画、写真、省略

3. フィルム「マナスに立つ」他 15 本
ビデオ 61 本

監 査 報 告

社団法人日本山岳会平成 4 年度の収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表および財産目録を監査し、正確妥当なことを認めます。

平成 5 年 4 月 13 日

社団法人 日本山岳会 監事 飯野 亨
監事 中島 伊平

日本山岳会 平成 5 年度事業計画 (案)

(5.4.1~6.3.31)

1. 登山の指導と奨励に必要な集会、研究会、講習会および展覧会の開催

(イ) 集会

・アンタクトティックウォーク南極点報告会 (青年)

本会 4 月 7 日

・新入会員歓迎さくらハイク (総務) 本会 4 月 18 日

・「火山を読む」講演会・守屋以智雄氏 (集会) 本会 未定

・新山岳研究所開所式 上高地 4 月 28 日

・ゴールデンウィーク合宿 (青年) 未定 4 月下旬

・上半期支部長会議 東京・コープビル 5 月 15 日

・通常総会 " 5 月 15 日

・木暮碑前祭 (山梨支部) 金山平 5 月 22 日

・第 17 回若葉会山行 (静岡, 集会) 岩嶽山 5 月 22~23 日

・フリークライミング集会 (学生) 東京近郊 5 月

・第 47 回ウエストン祭 (信濃支部) 上高地 6 月 6 日

・上高地ハイキング (集会, 山研, 総務, 信濃支部) 上高地 6 月 6~7 日

・谷川岳集会 (学生) 谷川岳 6 月

・高所登山の問題点を語る 本会 6 月

・小川山集会 (学生) 小川山 6 月中旬

・「森を読む」実地ハイク (集会) 仁科三湖 6 月

・映写会 (フィルム, ビデオ) 本会 6 月

・新緑スケッチ山行 未定 6 月

・山岳写真, ビデオ撮影会及び講演会 (フィルム, ビデオ) 未定 6 月

・フリークライミングコンペ (学生) 立教大学 7 月上旬

・初夏撮影山行 (フィルム, ビデオ) 未定 7 月

・報告講演会「春季海外登山」(青年) 本会 7 月 7 日

・講演会「氷河」(科学) 未定 7 月下旬

・実施研究山行 (科学) 仙丈岳 8 月中旬

・報告講演会「ガッシャブルム II 峰」(青年) 本会 9 月

・自然保護全国集会 (自然保護) 尾瀬 9 月

・新入会員懇談会 (総務) 本会 9 月

・事務担当者会議 (総務) 本会 10 月

・全国支部懇談会 (山梨支部, 総務) 増富 10 月

・秋のスケッチ山行 (集会) 未定 10 月

・紅葉撮影山行 (フィルム, ビデオ) 未定 10 月

・初級岩登り講習会 (指導, 集会) 未定 10 月

2. 什器備品

品 名	取 得 年月日	取得価格	所在
書庫内移動書架一式, コンパックル	53. 2. 10	1,500,000	図書室
応接セット一式, 張布イス, テーブル XLE-30	53. 8. 2	218,000	談話室
閲覧用テーブル(2台) 木製	53. 9. 28	250,000	図書室
ライティングビューロー, 木製	54. 6. 23	280,300	図書室
フィルム収納キャビネット (スチール製品)	56. 8. 8	254,000	図書室
図書カード容器, 木製 3 段	56. 9. 12	200,000	図書室
書 棚, 木製 2 段	56. 12. 22	500,000	図書室
16 mm 映写機 16-CL (MO)	61. 5. 13	156,000	図書室
MS パウチ H-140	61. 10. 17	95,000	事務所
東芝パーソナルワープロ WJ-R 70 F II	62. 3. 12	89,000	事務所
木製書架ガラス戸付(2台)	62. 9. 24	700,000	図書室
ソビエト製チタン酸素ボンベ一本	2. 7. 12	96,144	事務所
シャープ液晶ビジョン一式	2. 7. 19	587,932	事務所
ダンロップテント V 600, V 600 S 一式	2. 3. 22	117,420	事務所
世界対応 VTR 001 NWV	4. 5. 11	250,000	談話室
小型気象ファクシミリ JAX-9	4. 10. 19	320,000	事務所
合 計		5,613,796	

財産目録記載外のその他物品リスト (主として受贈益)

1. 図 書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	平成 4 年度 受入冊数	84 冊
洋 書	平成 4 年度 受入冊数	33 冊
		8710 冊
		3031 冊

2. 絵 画

題 名	種類, 号数	作 者 名	掲載, 保管場所
白 馬 岳	油 A-50	中村清太郎	大町山岳博物館
富 士 山 麓	油 A-25	茨木猪之吉	河口湖町立美術館
田 代 沼 の 白 樺	油 変形-6	中村清太郎	談 話 室
群 猿	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
伊 豆 半 島	油 - 10	茨木猪之吉	松本アルプス山岳館
針 の 木 峠	油 - 10	茨木猪之吉	図 書 室
徳本峠から穂高連峰	墨 絵	石田 吟松	松本アルプス山岳館
初 冬 の 両 神 山	油 - 10	茨木猪之吉	図 書 室
鳥 (カット原画)	墨 絵	石井 鶴三	図 書 室
メールドグラス	エッチング		図 書 室
モ ン ブ ラ ン	エッチング		松本アルプス山岳館
カンチェンジュンガ	エッチング	シュラーギントワイト	図 書 室
ユ ン グ フ ラ ウ	油	山里 寿男	集 会 室
潤沢より北穂高	水 彩 -6	山里 寿男	松本アルプス山岳館
槍ヶ岳初夏	油 - 10	中村清太郎	集 会 室
カンチェンジュンガ	パステル	矢崎千代二	談 話 室
北 穂 高 滝 谷	油 - 25	足立源一郎	談 話 室
或 朝 の 槍ヶ岳	油 - 25	足立源一郎	集 会 室
北 穂 高 主 峰	油 - 25	足立源一郎	談 話 室
槍ヶ岳	油 -P 8	足立源一郎	集 会 室
タンボチェの僧院	水 彩 -4	清野 恒	松本アルプス山岳館
シェルパの親子	水 彩 -4	清野 恒	松本アルプス山岳館
冬の山 (清太山)	墨 絵	近藤 茂吉	松本アルプス山岳館
ブカヒルカ・ノルテ	水 彩	渡辺 九郎	事 務 室
梓 川 秋 色	油 - 12	後藤三男	談 話 室
旧上高地山岳研究所	版 画 -8	松田 敏男	集 会 室
旧上高地山岳研究所	水 彩 -10	松田 敏男	談 話 室

・海外登山団体との機関誌および情報の交換

7. 海外登山

・マッキンリー峰登山隊 (気象観測隊) 派遣 6月上旬～下旬

・海外登山基金助成援助 (皇冠峰他3隊)

8. その他目的を達成するために必要な事業

・山岳図書の拡充をはかる

・その他目的を達成するために必要な事業を行う

収 支 予 算 書 (案)

平成5年4月1日から平成6年3月31日まで

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
I. 収入の部				
1. 基本財産運用収入				
基本財産利息収入	400,000	400,000	0	
2. 会費・入金金収入				
入金金収入	4,050,000	3,450,000	600,000	
通常会費収入	43,000,000	41,000,000	2,000,000	
終身会費収入	0	0	0	
会費・入金金収入計	47,050,000	44,450,000	2,600,000	
3. 事業収入				
広告料収入	1,500,000	1,500,000	0	
印税収入	20,000	20,000	0	
刊行物売上収入	800,000	800,000	0	
その他事業収入	3,000,000	2,500,000	500,000	
山研使用料収入	2,700,000	0	2,700,000	
事業収入 計	8,020,000	4,820,000	3,200,300	
4. 補助金等収入				
補助金収入	0	0	0	
5. 寄付金収入				
寄付金収入	0	0	0	
6. 雑収入				
受取利息	5,000,000	5,000,000	0	
雑収入	400,000	400,000	0	
雑収入 計	5,400,000	5,400,000	0	
7. 特定預金取崩収入				
退職給与積立金取崩収入	0	0	0	
当期収入合計(A)	60,870,000	55,070,000	5,800,000	
前期繰越収支差額	34,566,328	29,895,069	4,671,259	
収入合計(B)	95,436,328	84,965,069	10,471,259	

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備考
II. 支出の部				
1. 事業費				
出版費	11,480,000	11,380,000	100,000	
図書費	805,000	800,000	5,000	
調査研究費	1,295,000	1,236,000	59,000	
指導費	965,000	932,000	33,000	
支部関係費	4,000,000	3,500,000	500,000	
海外諸関係費	250,000	250,000	0	
山岳研究所運営費	2,900,000	1,177,000	1,723,000	
海外登山補助費	3,000,000	3,500,000	△500,000	
その他事業費	3,000,000	2,500,000	500,000	
印刷・製本費	1,000,000	500,000	500,000	
通信運搬費	4,300,000	3,600,000	700,000	
事業費計	32,995,000	29,375,000	3,620,000	
2. 運営管理費				
給料・手当	7,500,000	8,500,000	△1,000,000	
文具・消耗品費	250,000	200,000	50,000	
印刷・製本費	1,500,000	1,500,000	0	

- ・小川山集会 (青年, 学生) 小川山 10月
- ・報告集「サルトロカンリ西壁」(青年) 本会 10月
- ・山岳図書交換会 (図書) 本会 11月
- ・講演会「雪崩, 遭難対策」(科学) 本会 11月
- ・第30回マラソン大会 (学生) 皇居周辺 11月
- ・講演会「山岳資料について」(資料) 本会 11月
- ・講習会「テーピングの実習」(集会, 医療) 本会 11月
- ・下半期支部部長会議 新高輪プリンスホテル 12月 4日
- ・年次晩餐会 " 12月 4日
- ・忘年山行 (集会) 未定 12月
- ・冬山講習会 (学生) 本会 12月
- ・講演会「冬山遭難防止」(遭難対策) 本会 12月
- ・八方尾根懇親スキー合宿 (集会) 八方尾根 1月15～17日
- ・アルパインスケッチ展 (集会) 未定 1月
- ・雪山現地小集会 (集会) 北八ヶ岳 2月
- ・氷雪スキー合宿 (青年) 未定 2月
- ・アイスクライミング講習会 (青年) 八ヶ岳 2月
- ・自然観察山行 (自然保護) 未定 2月
- ・支部事務局担当者会議 未定 2月
- ・映写会 (フィルム, ビデオ) 本会 2月
- ・青年登山対策全国大会 (総務) 未定 2月
- ・山岳スキー講習会 (指導) 未定 3月
- ・新入会員オリエンテーション (総務) 本会 3月
- ・第22回山岳史懇談会 (図書) 本会 3月
- ・第25回山岳図書を語る夕べ (図書) 本会 3月

(ロ) 研究会

- ・山岳地帯に網かけ調査研究活動
- ・登山者の自然保護ボランティア活動調査推進
- ・第30回この1本展 本回 3月
- ・登山文化研究会の開催 本会 10月

(ハ) 講演会シンポジウム

- ・山への自然保護を考えるシンポジウム 青山学院大学 4月10日
- ・登山医学シンポジウムの協力「合理的で安全な登山」 本会 5月21日

- ・科学研究シンポジウム 本会 9月
- ・講演会 マッキンリー気象観測報告 本会 10月

2. 登山施設の運用, その他登山のための適切な事業

- ・上高地山岳研究所の運用 5月～10月
- ・上高地山岳研究所における自然エネルギー利用
- ・山に関する貴重なフィルム, スライド, テープ, アルバム等の複製および資料の収集, 整備, 管理

3. 山岳遭難の予防とその対策に関する企画および指導

- ・遭難救助研究会

4. 自然保護活動の推進

- ・自然保護全国集会
- ・自然環境保全のための現地視察
- ・フィールドマナー・ノート (和文, 英文) 作成配布

5. 機関誌等の発行

- ・山岳 88 (1993) 号の発行
- ・会報「山」第575号～586号の発行

6. 国内および外国山岳団体との情報交換

- ・国内関係団体 (日山協, 都岳連, HAT-J, その他) との密接な連絡

第三代会長木暮理太郎五十回忌

なごやかに本会記念碑の除幕式

去る五月九日、第三代会長木暮理太郎(昭和十九年五月七日没、七十二歳)の五十回忌を兼ね、日本山岳会による記念碑の除幕式が東京・多摩霊園の木暮理太郎墓所で行われた。

この日集まったのは、施主の木暮利夫さん(木暮理太郎翁の末弟子息)ほか親族十六名と、日本山岳会からは島田巽、佐々保雄、望月達夫の各名誉会員、山田二郎会長、川崎精雄会員、私

の六名で、私を除きいずれも木暮さんとは縁のある方々ばかり。

僧侶の読経のなか、記念碑除幕式が行われ、参列者全員が墓前に焼香をすませた。黒御影石の記念碑には「社団法人日本山岳会第三代会長木暮理太郎ここに眠る」と、山田会長の筆により刻まれている。

式を終え会食をはさんで、木暮さんの想い出が語られた。

旅費・交通費	1,600,000	1,500,000	100,000
通信・運搬費	1,200,000	1,200,000	0
火災保険料	430,000	100,000	330,000
修繕費	2,200,000	200,000	2,000,000
租税公課	600,000	600,000	0
光熱水料費	450,000	450,000	0
電話料	400,000	350,000	50,000
会議費	200,000	200,000	0
什器備品費	350,000	350,000	0
振替手数料	300,000	300,000	0
支部運営費	3,500,000	3,500,000	0
福利厚生費	160,000	160,000	0
事務所管理費	750,000	700,000	50,000
その他の管理費	1,120,000	500,000	620,000
負担金	135,000	0	135,000
雑費	600,000	600,000	0
管理費計	23,245,000	20,910,000	2,335,000
3. 固定資産取得支出			
什器備品購入支出	0	250,000	△250,000
建設仮勘定支出	0	0	0
固定資産取得支出計	0	250,000	△250,000
4. 特定預金支出			
長期計画積立金支出	3,000,000	3,000,000	0
5. 予備費			
予備費	1,500,000	1,500,000	0
当期支出合計(C)	60,740,000	55,035,000	5,705,000
当期収支差額(A)-(C)	130,000	35,000	95,000
次期繰越収支差額(B)-(C)	34,696,328	29,930,069	4,766,259

今年もさげんで会いましょう

望月名誉会員「木暮さんという、白い髭の乃木將軍の容貌を思い出す。著作の『山の想い出』上下巻は、還暦を過ぎ周りに攻めたてられてやっとみこしをあげられた感じで、昭和十三年から十四年にかけて龍星閣から上梓された。レリーフは、こよなく愛した

金峰山・五丈岩(御像岩)にという当初案が、田部重治さんたちの管理の問題、木暮さんの意思に反するなどの意見で、金山平に決まったと聞いている」川崎会員「鐘馗髭から寡黙で怖い感じがするが、山帰りでお金がなく、有料の境川橋を走り抜けたら、カブト虫を競争させた話を伺った。意外に茶目っ気があったようだ。私が昭和六年、上越の坂戸山に登り、内心自慢していたが、木暮さんは大正十五年にすでに登られていたのを知り驚いた」

佐々名誉会員「蓬来町のお宅によく



木暮翁記念碑(多摩霊園にて)

伺ったが、古文書を座右に、机に正座して書き物をされていた。『山岳』の校正手伝いもさせていただいた」

島田名誉会員「昭和五十三年十一月三日、群馬県太田市に在るの生家で行われた『木暮翁生誕記念除幕式』(会報四〇二号、昭和五十三年十二月所載)の出席者芳名録を持参。芳名録は『復刻日本名著』別巻増補版上下二巻本・山の想い出(昭和五十年)の装丁見本を使用したもので貴重品」などが披露された。

木暮利夫さんからは「若い時は知らないが、伯父は酒は飲まず、甘いものが好きだった。よくアンコ玉をお土産にもらった」との逸話や、親族の目下部さんは「昭和五年に御室から金峰山に連れていってもらった。その途中で捕らえたカブト虫とクワガタを、頂上の岩の上で喧嘩させた」なども。

こよなく金峰山を愛された木暮さん。『山の想い出』上巻では「金峰山は実に立派な山だ。獨り秩父山脈中に嶄然頭角を抜いて居る許りではなく、日本の山の中でも第二流を下る山では無い。世に男の中の男を稱へて裸百貫といふ諺があるが、金峰山も何處へ放り出しても百貫の貫祿を具へた山の中の

山である」と最大級の賛辞を贈っておられる。

なお、木暮家墓所は多摩霊園二二区一種四四側二一番。JR中央線武蔵小金井駅、京王線多摩霊園前駅からバスで多摩霊園裏門下車、徒歩二〜三分。

(高田真哉)

今西元会長

ネパールの名誉総領事に

一九九四年の関西新空港開港を間近にひかえ、大阪ネパール名誉総領事館が再開され、当会の名誉会員今西壽雄氏が名誉総領事に就任された。披露は五月十八日、大阪中之島ロイヤルホテルで行われ、登山関係者も多数出席し、盛会だった。

新空港が開港すれば、週二便の直行便が飛ぶ予定で、ネパールとの距離はいつそう近くなる。総領事館は今西組社内に設置され、二十日からビザ発給などの業務を行っている。

(嶋原啓佑)

資料寄付のお願い

登山の用具、記録等、整理する時考えてみて下さい。他に寄付する前に山岳会へ。捨てる前にも再考を。

資料委員会



山と自然の断章(4)

岡村治信

■自分が見えてくる

山に入ってふだんの生活や仕事から完全に離れてみると、いろいろの困難や疑問や苦しみはそのままながら、心理的には軽々とした気分になれるのは不思議なほどだ。他の趣味や好きなことに没頭することで同じような心境を味わえる人ももちろん多いと思うが、少なくとも私の場合は、自然の中で一切の日常が昇華されあらゆる思考が停止した時に、すべての事物の根本にある自分自身があからさまに見えてくることがある。

多くの場合は自分の至らなさへの悔恨や反省であるが、時には穏やかな人生航路に恵まれていることや、親族知友の温かい恩義に感銘することもある。その感慨が沸騰して涙することも珍しくない。そのすぐ裏には、済度し

難い甘えの心理があるのかもしれない。しかし結局は天地自然のわざによって支えられている、ありのままの自分を深い感謝とともに受け入れるより他にないのである。

■山の友情

荒川三山を縦走して荒川小屋に泊まろうとしていた。気がつくと、最後の水場のところまで小屋の主人が迎えに来ていた。彼が言うには、もう二時間も前に小屋に着いた人に聞いたところ、悪沢岳付近で一人追い越して来たがこの小屋に泊まると言っていたのにあまり遅いから心配だ、ということなので、探しながら様子を見に来たのだった。

なるほど私としては雄大な展望をゆっくり楽しみながら歩いてきたのでつい時間を気にしなかったが、他の人からは歩き疲れて往生したか事故にでも遭ったと思われるかもしれない。こんな時に、探された身としてはつい、とりこし苦労だとかよけいなお世話だ、と考えてしまいがちである。しかし山では、見知らぬ人でもかなり疲れていたたり小屋に着くのがあまり遅いとかいうときは大いに気掛りなものである。この日私が他の登山者や小屋の主人に心配をかけたのも思えば当然のことだった。同舟あり救うという言葉もある。岳人どうしの純粋な友情は貴重

であり大いに感謝すべきである。山もまたそのような人間のこころの交流を喜び歓迎しているに違いない。

■地軸からのメッセージ

鹿児島在勤の二年間は、丘の中腹にある公舎から市街地と錦江湾を距てて桜島を望み、その絶景を賞でるのが毎日の楽しみだった。転勤のため間もなくこの地を去ろうとするある一日、フェリーで錦江湾を渡って桜島の溶岩原を訪ねた。大正三年爆発時の膨大な溶岩が、棧橋のすぐ近くから長さ四キロ幅二キロにわたって広がる。不羈奔放に乱立する安山岩の岩塔が眼路のかぎり連なる景観は、狂乱怒涛の大海原が瞬時に固結したようだ。その逞しさ力強さと比較すれば、いかなる荒海もなお穏健であり柔和である。

散策路から一歩踏みこむと、劇しくも屈強な岩肌の感触に圧倒される。私はその只中を方向も定めず気ままにさまよい、手あたりしだいに岩柱を攀じ登っては南岳の噴煙と青い海を眺めた。また底深い岩穴に降りては重苦しいマグマの息づかいと匂いを全身で受けとめた。あらゆる理論をも情調をもすべて超越するがゆえに、安山岩と人間との赤裸な交流は深遠であり簡明であり、そして純粋である。

この日の岩漠彷徨によって、桜島の奥深い息吹きに同化し、地軸からの使

者マグマの囁きを聞き、地球のこころを読むことができたように思う。私は、これで二年にわたる畏友にこころおきなく訣別できるという安心感を抱いて、最終便のフェリーの甲板に立ったまま桜島山のあの優美な山容と盛大な噴煙を飽かずに眺めていた。

『山』の編集をふり返って

小倉 厚

引き継ぎを終わって今はほっとしている。やっと肩の荷がおりた、といった感じた。

ふり返るとこの四年間、通常号四十八、特集号一、総目録一、合計五十号の編集作業であった。思えば正月も夏休みもない遠い道のりだった。それだけに次の担当の方にご苦勞さま、どうかよろしくお願い申し上げます。

二十頁の編集など普通ならほんの片手間でできることである。それが何故忙しく、何故つらかったのかといえ、原稿の内容のチェックや検討もさることながら、その割付け・レイアウトが他の雑誌や新聞と違う点に起因する。一口にいえば二十頁がたった一枚の大判の割付と同じで、いうならば毎月大きなパズルをやっているようなもの。

海外の山

冒険と「命の水」 「ガソリンとの戦いでした」

江本嘉伸

モンゴル・アルタイ山脈のツァンガラボ山(四二〇〇呎)からのスキー滑降に挑戦した冒険スキーヤー、和田好正(三九)は、ウランバートルに帰着して、そう語った。

マッターホルン北壁のスキー滑降を一九八五年にやっていた和田は、以後マッキンリー(八八年) ニュージーヤ・ジャヤ峰(九〇年) アフリカ・ケニヤ山(九一年) エクアドル・チンボラソ山(同年)と、大陸を変えて地球の山々を滑ってきた。マッターホルン北壁の滑降シーンをビデオで見ると、その技術は並みのものではないことがわかる。

モンゴルを九二年に訪れた和田は、モンゴルの関係者と話し合っ、冒険スキーの舞台を外国人の立ち入っ

ないツァンガラボ山と決定、さらに「日本・モンゴル友好」「地球環境保全」をうたったこの試みに、モンゴル人、パラシューター、ハングライダー滑空者各一人が参加することになった。

空と山からの冒険の実施期日は、今年六月十二日午前十時と合意された。再度モンゴル入りした和田と支援隊を迎えてウランバートルの広場で出発式が行われ、一行は現地向かった。

空陸同時の冒険は、気象と連絡の手違いなどでならなかった。最初に実行したのは、モンゴル空軍のパラシュート教官で、通産三千四百回の降下経験を持つ、オトリアット。六月十二日午後九時、ヘリで飛び、五千二百呎の高度から正確に、頂上降下をなしとげた。

この季節、モンゴルでは午後十時を過ぎても明るい。オトリアットは、暗くなってから一人で下りてきた。

和田の冒険は六月十四日に実施された。三二〇〇呎地点から支援隊と共に五時間かかりで登頂、四五度から五〇度の斜面を四時間かけて滑り降りた。

途中クレバスはあったが、マッターホルンを滑降した人間にとっては、技術的には大した困難はなかったであろう。その模様はテレビカメラに収録さ

れた。

困難は、和田たちが「命の水」と呼んだガソリン補給の問題に尽きた。

旧ソ連の傘下を離れ、市場経済の道を歩きだしたモンゴルで、最大の難問はガソリン不足である。人々は十リットル単位でガソリン確保に奔走する。以前なら毎日一便は飛んだ各県への定期便も、今では週二、三回飛ばないほうだ。

和田たちが奥地に行くにあたり、ガソリンをいかに補給するかが、常に大きな障壁となった。ヘリコプターをチャーターするにしても、その燃料は別のトラックを使って運ばねばならない。そのトラックのためのガソリンもまた、必要だ。

「予想しなかった苦勞でしたが、これまでの冒険スキーでは得られなかったことを教えてもらいました。それに何といってもモンゴルの自然はいい」開かれたモンゴルに今年もそれぞれの思いと共に、登山家、冒険家が訪れる。

ガソリン調達の問題は、その中でモンゴルの現状を正しく認識させてくれる教材だ。

一般の雑誌の編集は、各章ごとに活字指定をして印刷所に出し、もしその章の終わりがあけばカット、広告あるいは埋草原稿で適当に埋めればよいわけです。しかしこの会報『山』ではそれができない。全原稿が揃わなければレイアウトはできない。つまり原稿が一本でも欠けていれば作業は手がつけれないわけです。したがって、この会報には埋草などと称する原稿はいらない。そういうことから会報で最も大切なのは、原稿締切日(毎月十日)の厳守であるということはおわかりと思います。これがやはりなかなか大変で、いつも十日前後はいらいらの繰返しでした。どうか、これからは締切日を守って欲しいと思います。

次のレイアウトに当たっては、二十頁先まで見つけて正確な字数と行数の計算が必要で、私の場合にはより正確を期するため、全原稿をリライトした。

以上のような事情だから、既にゲラになったものの記事の差し換え、差し入れが最も困る。ほぼ同じ分量の記事でもない限り変更はなかなか難しい。

第二十九回観光週間

(八月一日～七日)の目的

- ① 観光道徳の高揚
- ② 観光地の美化

総務委員会

特にトップ記事の場合はなおさらに困難で、印刷所のほうも迷惑だ。これからはあまりないと思うが、私の担当した時に限ってそれがしばしばおきた。単なるお遊びクラブの会報ではなく、『山』はいやしくも公益法人の機関紙だからおきざるを得ない会の事情もあったから仕方ない。H A T J、二次にわたるナムチャバルワ峰登山、上高地山研の改築からそれに伴う募金活動と会務多忙が主因だが、レイアウトは悪くなるし、ケアレスミスも出やすいから、編集者としては一号、一号、薄氷を踏む思いだった。

何しろ遠いチベットの果て、ナムチャのBCからFAXが瞬時にして届く時代になったわけだから、編集者としては気の休まる暇はなかったのは当然だ。それに対応するために、私は家庭の事情で今では新潟と浦和に半分ずつ住み分けているが、その両方にコピーとFAX、さらにワイヤレス電話を導入した。そんな人知れぬ苦労が実って、ともかく以前よりはぐっとホットなニュースが入っていると自負もしている。

次に困ったことは会報『山』は公益法人の機関紙だという認識のない原稿が時にあり、その取り扱いに苦慮したこと。第三には長い原稿が多くて困ったことである。ご承知の通り会報には

二十頁という紙数制限があり、長文のものはそれだけ他の会員のものを圧迫することになる。おっと、この原稿も会報用にはそろそろ長くなってきたようだ。ここで止めよう。

報告

名誉会員三氏があいついで逝去

野口末延、麻生武治、高山忠四郎の三名譽会員が、本年三月五月にかけて相次いで逝去されました。ここに謹んでお知らせいたします。追悼文等については、いずれ改めて掲載の予定です。

野口末延氏(会員番号八〇六、名誉会員、元監事)
かねてより入院加療中のところ、三月十四日、入院先の国立医療センターで死去。行年九十五歳。なお、菩提寺は東京根岸の永稱寺の由。喪主は妻、まつさん。

野口氏は、一九二二年四月本会入会。「霧の旅」のメンバーとして、神谷恭、松本熊次郎氏とともに活躍され、本会の会合にもよく顔を出されていた。昭和三十三年から四十一年監事。昭和五十七年には名誉会員に推挙されている。晩年はよく奥様と一緒、好きだった吾妻の山などを歩かれていた。北海道支部の大塚支部長追悼のべ

とにかく、何とかここまでやってこれたのは、編集委員、事務局、執筆者各位の絶大なご支援、ご協力の賜で、ここに厚くお礼を申し上げます。

テガリ岳登山には、最高齢者として参加されていた。
(編者注) ご遺族のご要望により、四十九日忌が過ぎるまで公表を控えさせていただきました。

麻生武治氏(会員番号五二九、名誉会員)
五月三十日、午後一時五分、心不全のため、東京足立区の病院で死去。行年九十四歳。告別式は六月一日午後一時より、港区高輪の自宅で行われた。喪主は妻、康子さん。

麻生氏は名門暁星中学から早稲田大学に学び、大正十一年、早稲田の山仲間舟田三郎氏と槍ヶ岳の頂上から北鎌尾根を下降し、初トレースをつけたことは有名。その後大正十三年には、舟田三郎、小笠原勇八氏と厳冬の槍ヶ岳に登頂している。一九二三年から二六年にかけてドイツ国立大学に留学中、ヨーロッパアルプスで数々の

登攀を行っている。著書に『銀嶺に輝く』他がある。昭和五十七年には名誉会員に推挙されている。

氏は日本初のスキー代表選手として、サンモリッツ冬季五輪に出場。その後も二回の大会に選手兼監督として参加している。一方早大時代には、箱根駅伝に三年連続して出場し、五区の区間新をマークするなど、スポーツ万能選手として活躍。東京五輪組織委員会参事も務めた。このような多年にわたるスポーツ界への功勞に対し、一九九一年にはビッグスポーツ賞特別表彰も受けている。

高山忠四朗氏 (会員番号二七〇二、本会第三代信濃支部長、元顧問、名誉会員)

五月二十九日、午前八時二十四分、天寿を全うして死去。行年九十二歳。六月一日近親者のみによる密葬を行い、本葬は六月二十八日、松本市中央公民館において行われた。葬儀委員長は赤羽孝一郎信濃支部長。喪主は長男、冲忠氏。

高山氏は、昭和二十二年七月、本会入会。戦後の信濃支部の設立の他、ウエストン祭等に尽力された。昭和二十七年四月、尾崎喜八前支部長の後を受けて、第三代信濃支部長に就任。以後昭和四十三年三月まで十六年間の長きにわたり支部長を務めた。昭和四十八年十一月顧問、昭和五十九年には名誉

会員に推挙されている。なお大正から昭和初期にかけてのわが国鳥学の黎明期に、裏方として若き情熱を傾けられ、登山界にも貢献された氏の足跡については、林正敏著『鳥学を支えた巨人』(信濃毎日新聞社、平成二年刊)に詳しい。

(Y・M)

田辺主計氏宛て書簡類を本会に寄贈

資料委員会

田辺主計氏に寄せられた来信・書状四十四通が本会に寄贈された。

これらは全て自筆の手紙や葉書で、その意味でも有意義であるが、素晴らしいのはその内容である。洋書や著書についての批判や感想、山仲間の追悼や消息など、先輩各位の山に対する熱い思いが込められていて、本会の資料として貴重なものである。

資料委員会ではこれらを保管し、一般会員にも閲覧していただくよう準備を進めている。書簡類は次のとおり。

木暮理太郎(一通)、黒田孝雄・米子(一通)、榎有恒(九通)、松方三郎(八通)、フォスコ・マライーニ(一通)、ペテ・オーバ・ノミア(一通)、藤島敏男(六通)、深田久弥(三通)、近藤茂吉(一通)、牧野文子(一通)、交野武一(一通)、今西錦司(一通)、島田 巽(五通)、望月達夫(五通)。



図 書
紹介

MY
VERTICAL
WORLD
Climbing the
8000 metr
peaks

JERZT
KUKUCZKA

一九七九年から八年間で八千餘峰十四座の登頂に二番乗りした、しかも最初のローツェを除いて全てが新ルートか冬期初登をなしたポーランド人ククチャの登攀記録である。

資金稼ぎ、外貨獲得、割当食料の入手、戒厳令下自由を求めて遠征隊に参加、古い手作りの道具など、つい先日までのポーランドの実状がうかがえる。

このような状況下でのハングリー精神がクラシックスタイル、アルパイン、単独で、しかも自国隊、国際隊にと積極的に参加させ、十四座に向かわせている。

いずれも大小困難や遭難を伴った登攀であり、ブロードピークは下山時に出会ったメスナーの登攀記で無許可登頂が発覚したし、マカルーでは不仲の

リエゾンオフィサーが登頂していないと噂を流していた。これは翌年韓国隊が山頂でククチャがピトンにくくりつけた一歳の息子のプラスチック製天道虫を見つけ、登頂を証明してくれたなど、エピソードに欠かない。

生来、高度順応は遅いほうで何度か高所不適体質かと自信をなくしかけていたが、遅まきながら一度順応すると平素の脈搏七十がベースキャンプあたりで四十八程度になり、その後はこのような実力を発揮する高所適体質だと、途中からは自信をつけている。

一度はあと一峰でライバルのメスナーに追いつくところまで迫るが、マナスルの登攀中にメスナーが十四座に登ったことを朝食時のラジオで知る。

仲間といったメス・テント内の静まり返った雰囲気にならず、もう急ぐことはない。この山を穏やかに登ろう!」と大声で叫んだと、そのときの心境を記している。

このような偉業を成し遂げた家族や友人思いの著者は、この十四座登攀記を書き上げた後、唯一ノーマル・ルートから登頂したローツェに南壁新ルートを開拓すべく出かけたまま、勇途虚しく不帰の人となった。

一九九二年、『The mountaineers (Sea・三〇) 刊、一八九頁。二十九・九五ドル。

(南井英弘)

・会務報告

五月定例理事会

日時 五月十三日(木) 十八時四十分
分 二十一時

場所 日本山岳会会議室

出席者 山田会長、藤平、松田副会長、小倉(茂)、大森、大倉、入沢、石橋、小倉(厚)、村井、山口、南川、藤井、片岡、神崎、重広、関口各理事、橋本、西村各常務評議員、中島、飯野各監事、中村

(委任)伊丹、穴田各理事、斎藤、湯浅各常任評議員

◆議事

〔審議事項〕

一、図書管理パソコン購入について
松田、小倉(茂)

図書管理要員の雇用(四月理事会)に続き、管理用パソコンを購入したい。蔵書点検システム、ハード富士通(約百八十万円)、ソフト情報館(約百七十万円)、バーコード(約五十万円)計約四百万円。五年リースで毎月八万五千円である。早急にシステム設計にかかりたい。承認

予備費で計上したい。大倉

二、アドベンチャー二〇〇〇出席について 松田

十一月十三、十六日、イタリア・

カッシーノで開催。テーマが「南半球の山」なので、田部井会員と吉川会員(アンタートテックウォーク)を派遣したい。承認

三、自然保護専門委員会設置について
大森

自然保護活動の円滑化のために、細則②にある「理事会のスタッフ部門としての専門委員会」として設置したい。承認

四、責任者賠償保険(同好会)について
入沢

同好会活動が盛んになる傾向があるが、会が責任を持てるようリーダー各人に登録費を支払ってもらい、一人山行一日当たり五十円の保険料は会で負担していただきたい。承認

五、三国合同登山報告書(英語版)について 橋本

読売新聞社から引き取った八十冊の代金が未払いなので支払いたい。

残部は極力販売していただきたい。

大倉 承認

六、在籍五十年に達した会員の会費納入について 松田

柴田重太郎会員(二二四)からの問題提起に応じて次のように明確化した。①会費を五十年間納付した会員は、永年会員として翌年度から会費が免除される。年次晩餐会の席上永年会員章が授与される。②ただし、当該年の年

次晩餐会以降一、三月に入会した会員については、翌年十二月の年次晩餐会で授与される。③これらの会員は定款第六條四項による永年会員の資格を持つているので、その年の会費納入の必要はない。承認

〔報告事項〕

一、山研について 小倉(茂)、石橋

四月二十八日、竣工式を現地で開催。来賓を含め出席者四十五名。自転車振興会補助金については最後の交渉をしている。

二、「エベレストママさん」テレビ化について 松田

田部井会員の著書がテレビ放送(ドラマ)される。この中に、日本山岳会当時婦人懇親会のシヴァ登山のことが出るので、あらかじめ了承願いたい旨の連絡があった。関西テレビ制作、フジテレビ系列放送。六月二十日、二十七日午後九時。

三、五月十五日総会、支部長会について 藤井

四、今西名誉会員がネパール王国大阪名誉総領事に就任した。松田

新入会員承認 佐々木孝他三十六名(内復活四名)

五月臨時理事会

日時 五月二十八日(金) 十八時四十分

場所 日本山岳会会議室

出席者 藤平会長、嶋原、中村副会長、小倉(茂)、大森、大倉、村井、山口、片岡、松浦、南井、中川、水野、渡辺、溝口、伊藤、大谷、堀井、山本各理事、湯浅、宮下各常任評議員、中島、川崎各監事

(委任)南川理事、斎藤、西村各常任評議員

議事に先立ち、藤平会長が今後二年間の取り組みにつき『当面の問題点』として六点をあげ、各委員の協力を懇請した。

◆議事

〔審議事項〕

一、新役員担務について 小倉

■会長 藤平正夫 ■副会長 嶋原啓佑、中村純二 ■常務理事 小倉茂暉(総務) 大森弘一郎(自然保護)、大倉昌身(財務)、村井龍一(青年部) ■理事 山口俊輔(資料、フィルム・ビデオ) 片岡泰彦(指導、遭難対策)、南川金一(山岳)、伊藤敏(会報)、中川武(総務・集金)、水野勉(図書管理)、渡辺雄二(高所)、堀井昌子(医療)、松浦祥次郎(科学)、山本宗彦(学生部)、大谷亮(海外)、南井英弘(図書)、溝口洋三(山研) ■監事 中島伊平、川崎巖 ■常任評議員 斎藤惇生、湯浅道男、西村政晃、宮下秀樹、重広恒夫、神崎忠男 ■評議員 西丸震哉、村木潤次郎、徳久球雄、鈴木郭之、国

見利夫、田部井淳子、広江研、山田二郎、小須田喜夫、松田雄一、平林克敏、田中弘美、梅木秀徳、宮本数男

二、新支部長について 小倉

北海道支部から報告。支部総会を四月二十二日開催し、支部長に野田四郎会員(会員番号七八三〇)が選任された。承認

三、合同募金委員会の解散について 小倉

五月十五日、合同募金委員会を開催。議長は今西委員長欠席のため、藤平副委員長が務める。三月三十一日をもって募金を集計した。

決算報告

企業募金 五一三万六〇〇〇円
会員募金 四五六万三九四〇円
利息 一二二万七六五四円

計 九八四〇万七五九四円
以上決算報告を承認し解散した。承認

〔報告事項〕

一、責任者賠償保険について 小倉

今後総務で賠償保険を取り扱う。六月十日までに指導者名簿を出していた。同好会については前回の理事会で承認されたので郵送してある。

二、秩父宮記念学術賞について 松浦
科学委員会では本年は鳥居委員の

「自然エネルギー利用の研究」を申請した。

三、総務より、次回理事会までに各委員会名簿の提出をお願いしたい。

〔各委員会報告〕

青年部 ①例会五月七日*マカール峰

登山報告(講師・山本修氏、日大OB)

*第四次海外登山マッキンリー峰、六月四〜三十日、マッキンリー氣象観測隊に協力して行う。大蔵喜福以下九名参加。*来年の第三次海外登山に備えて、旧ソ連邦のキルギスタン共和国に、二名を八月に派遣する。なお、来日中の同国アカエフ大統領を四月二十二日訪問し、両名の受け入れについて要請。②マッキンリー峰富士山合宿

五月二十二〜三日。③予定*マッキンリー峰隊壮行会 六月二日(ルーム)

*谷川岳集会 六月四〜五日(成溪紅芝寮)。

学生部 ①新年度役員決定 委員長椎名厚史以下八名。②例会 四月二十一日(各行事に責任者をおくなど、活性化を図る。皇居マラソン大会は三十周年になり、準備を進める、など)

次回理事会 六月十七日、十八時三十分より日本山岳会会議室。

◇◇◇◇◇



(5月)

6日 学生部
7日 青年部
10日 総務委員会

11日 女性懇談会

12日 集委員会、アルパイン・ス

13日 ケッチ・クラブ

14日 青年部、学生部

15日 総務委員会

16日 フィルム・ビデオ委員会

17日 山研委員会、科学委員会、三水

18日 会

19日 科学委員会、学生部

20日 自然保護委員会

21日 資料委員会、アルパイン・ス

22日 キー・クラブ

23日 集委員会

24日 学生部

25日 臨時理事会、図書委員会

26日 資料委員会

27日 5月来室者531名

会員異動

物故

山中 崇(四一七四) 5・2・9

百瀬 一茂(四三三五) 5・3・7

日高萬喜男(九六六八) 5・4・17

吉崎 章(七六四四) 5・4・23

風間 新作(九〇五六) 5・5・7

高山忠四朗(名誉会員二七〇二)

麻生 武治(名誉会員五二九) 5・5・30

退会

小野崎武二(五七〇八) 5・5・31

三宅正太郎(七五四〇) 5・5・31

横山トシエ(一〇七三八) 5・5・31

美原 正夫(九六一六) 5・5・31

遠藤 忠義(二八二二) 5・5・31

佐藤威一郎(八一五六) 5・5・31

磯田 和夫(七六二三) 5・5・31

松浦 勇次(七八三八) 5・5・31

福久米之助(二五八二) 5・5・31

姓名変更

加藤 智二(一〇二二七) ↓加藤智司

終身会員

松久 博(四一四二) 5・4・30

星 勝雄(四〇五一) 5・5・31

会報576号住所変更欄訂正

中垣 栄子(六八一二) ↓中垣淑子

山研・ナムチャ合同募金応募状況

(六月二日現在)

(八口) 勝山康雄(十二)(四口) 西郡

光昭(八) 阿部和行(十) 大久保春美

(二口) 守山進太郎(六) 浅利欣吉(四)

日置邦(四) 安間莊(八) 成田三左雄、

村山裕嗣、坂井広志(三)(一口) 松井

宝一、平位剛、見沢繁幸(三)(〇・

六口) 澤村真治

(累計二千六百二十八名、八千六百八

・一口 四千三百五十五万五千九百六十

書 籍・雑誌 受入報告 1993年4月

著 者	書 名/雑誌名	版型・ページ	出版元	出版年	寄贈/購入別
西畑武・他	静岡県のとうげ	B 6/368 p.	西畑武・他	1993	著者寄贈
静岡県山岳連盟(編)	静岡市の三角点 100	B 6/240 p.	編者	1993	西畑武市寄贈
大和久震平	古代山岳信仰遺跡の研究	A 5/631 p.	名著出版	1993	著者寄贈
学習院輔仁会山岳部(編)	いざや登らん(山桜4号)	B 5/191 p.	編者	1993	発行者寄贈
追悼集刊行委員会(編)	追悼・井上治郎	B 6/416 p.	編者	1993	編集寄贈
長野県山岳協会登山隊	遠き嶺シヤパンマ	B 5/117 p.	編者	1992	編者寄贈
坂本健三・坂本艶子(編)	写真集・山の花への道	26×22/209 p.	編者	1992	飯島斉氏寄贈
皆川孝平	世界を歩くーわが旅の視点ー	B 6/273 p.	新有堂	1982	著者寄贈
皆川孝平	続・世界を歩くーわが旅の視点ー	B 6/238 p.	新有堂	1987	著者寄贈
穂苅貞雄(編)	写真集・梓川一季節の流れのなかでー	B 5/64 pp	山と溪谷社	1993	著者寄贈
	分県登山ガイド(7) 茨城県の山	A 5/111 p.	山と溪谷社	1993	発行者寄贈
	分県登山ガイド(10) 埼玉県の山	A 5/143 p.	山と溪谷社	1993	発行者寄贈
	分県登山ガイド(13) 神奈川県の山	A 5/127 p.	山と溪谷社	1993	発行者寄贈
	分県登山ガイド(14) 山梨県の山	A 5/110 p.	山と溪谷社	1993	発行者寄贈
追悼編集委員会(案)	初見一雄追悼集	B 6/205 p.	編者	1993	編者寄贈
冠松次郎	富士山の旅	B 6/265 p.	霞ヶ閣書房	1949	購入
Sean Dougherty	Selected Alpine Climbs in the Canadian Rockies	18×13/320 p.	Rocky Mt. Books	1991	購入
Ben Gadd	Handbook of the Canadian Rockies	22×14/876 p.	Corax Press	1986	購入
Jim Bridwell	Climbing Adventures-A Climber's Passion-	23×15/209 p.	ICS Books	1992	購入
Rachel da Silva (ed.)	Leading Out-Women Climbers Reaching for the Top	23×15/358 p.	Seal Press	1992	購入
Alison Osius	Second Ascent-The Story of Hugh Herr	23×16/234 p.	Stackpole Books	1991	購入
David G. Campbell	The Crystal Desert-Summers in Antarctica-	23×16/308 p.	Houghton Mifflin	1992	購入
Andrew J. Kauffman	K 2 : The 1939 Tragedy	23×16/224 p.	Mt. Diadem Books	1992	購入
Jim Perrin	Yes, to Dance-Essay from Outside the Stockade-	24×18/196 p.	Oxford Ill. Prs.	1990	購入
B.C. Olschak, et all	Himalayas	30×24/288 p.	Facts on File	1987	購入
S. Ali & S.D. Ripley	Compact Handbook-Birds of India and Pakistan-	32×21/841 p.	Oxford Univ. Pr.	1987	購入
O. Polunin & A. Stainton	Flowers of the Himalaya	22×15/580 p.	Oxford Univ. Pr.	1984	購入
Adam Stainton	Flowers of the Himalaya (A Supplement)	22×14/86 p.	Oxford Univ. Pr.	1988	購入
Steve Wootton	Nutrition for Sport	25×18/199 p.	Simon & Schuster	1988	堀内章雄氏寄贈
Galen Rowell	Mountains of the Middle Kingdom	26×31/191 p.	Sierra Club B.	1983	購入
The Survey of India	The Himalaya Mountatins & Surrounding Regions(Map)	21×25	The Survey of India	1919	購入
Franz Nieberl	Das Klettern in Fels	20×14/194 p.	Bergoerlag R.R.	1926	購入
Sten Bergman	Throuth Kamchatka by Dog Sled & Skis	22×15/284 p.	Secley Service	1927	購入
Enil Zsigmondy	In Mochgebirge-Wanderungen-	27×21/360 p.		1889	購入



☎ 3234-6659

この電話で
お知らせ
しています

◆テレビ放映されます

「南極・白い大地」

白川義員、前人未到の旅路

八月十一日(水)二十時より

NHK総合テレビ NHKスペシャル

白川義員会員(六三四五)の南極一周撮影

行がテレビ番組として制作され、右記のタイ

トルで放映されます。NHKスペシャル枠が

個人を取り上げるのは極めて希なこと。過酷

な南極大陸に展開される白川会員の壮大な撮

影理念とロマンあふれる映像!!

ご期待ください。

◆平成五年度自然保護全国集会

自然保護委員会

「日本山岳会の自然保護はいかにあるべきか」
をテーマに、本年度の全国集会を次のとおり
開催します。

期日 九月十一日(土)～十二日(日)

会場 群馬県利根郡片品村戸倉 戸倉ロッジ

電話 〇二七八―五八―七四四三

集合 十一日(土)、現地十五時受付開始。

新宿西口午前七時発のバスも用意しま

す。なお、アヤマ平見学(植生復元状況)

希望者は鳩待峠に十二時集合のこと。

日程 十一日、十八時から懇親会。十二日、

午前中討議、昼食後まとめ、十四時三十分終了。

会費 一万二千元(一泊三食、懇親会費等)

交通費別(バス代往復 八千元)

申し込み 宿泊予約のため八月十五日までに
氏名、会員番号、連絡先、生年月日(保険加入のため)、山行希望等を記入し、
はがきで自然保護委員会へ。申し込み
者には後日、詳細案内を送ります。

◆事務局も夏期休暇!!

八月九日(月)～十四日(土)まで、日本山岳会の事務局も夏休み。この期間、ルーム、図書室とも閉鎖します。

◆編集後記 ●本号は新編集委員による初仕事です。前任の小倉厚さんが苦勞話を書いておられますが、会員の皆様方のご協力をお願いいたします。●本号は通常総会の記事が半分以上の頁を占めましたので、「支部だより」欄を次号に廻し、「東西南北」欄の一部を割愛せざるを得ませんでした。
(T・I)

日本山岳会会報 山 578号

1993年(平成5年)7月20日発行

発行所 社団法人日本山岳会

〒102 東京都千代田区四番町

5-4 サンビュウハイツ

四番町

TEL 東京 (03) 3261-4433

振替口座 東京 3-4829

発行者 藤平正夫

編集人 伊藤 敏

印刷 株式会社 技報堂